

令和4年度第1回小牧市青年の家運営委員会 議事要旨

【日時】 令和4年7月5日（火）

午前10時30分～午前11時15分

【会場】 小牧市青年の家 講義室

【出席者】 松永委員、林（千）委員、橋本委員、小池委員、林（義）委員、船橋（早）委員、船橋（鐸）委員

【事務局】 鍛冶屋こども未来部長、川尻こども未来部次長、伊藤課長、若林係長、武田指導員、荒川

（こまき市民文化財団）伊藤施設長、野中次長、川中さん

【傍聴者】 なし

【議題】（1）令和3年度青年の家利用状況について

（2）令和4年度青年の家事業計画及び中間報告について

【会議内容】

1 こども未来部長あいさつ

皆様には日頃から青少年の健全育成のため格別のご尽力を賜り、厚くお礼申しあげます。

小牧市青年の家は、心身ともに健全な青少年の育成を図るための施設として、小牧山の自然に囲まれた好立地、宿泊のできる公共施設という特徴を活かして、各種事業を展開しております。

昨年度は、前年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、施設の利用期間の短縮や、利用を停止する期間がございましたが、8月には一部利用条件を設けながらも宿泊の利用を再開するなど、より多くの利用者の方に青年の家を利用していただけるよう、施設の管理・運営に努めてきました。

本日は、令和4年度第1回目の青年の家運営委員会ということで、昨年度の実績と今年度の中間報告について、議論を進めさせていただくところでもあります。

皆様方の忌憚のないご意見を頂戴し、今後の施設運営に活かしていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

《委員自己紹介》

《事務局紹介》

《委員長選出》⇒《松永委員が選任》

2 議題

(1) 令和3年度青年の家利用状況について

(事務局 (こまき市民文化財団))

資料3、4にもとづいて説明。

以下のとおり、質疑応答があった。

(橋本委員)

資料4にある地方公共団体はどういう団体のことか。

(事務局 (こまき市民文化財団))

地方公共団体は小牧市のことを示している。

(林(義)委員)

コロナ前の数字と比べると差がある。徐々に戻りつつあると感じているが、一度なくても済んでしまったものは、もとに戻りづらいので、ぜひいろんな工夫を凝らし、活気ある青年の家に戻ってもらえるよう、頑張ってもらいたい。

(事務局 (こまき市民文化財団))

コロナがまだまだ収まらない状況ですが、以前のような活気を取り戻せるように事業を進めていきたい。

(松永委員長)

小牧山は史跡の発掘調査や来年には大河ドラマがあり、スポットが当たってる。れきしるこまきや創垂館もある中で、青年の家だけが埋没していかないように頑張っていかなければと思う。

(2) 令和4年度青年の家事業計画及び中間報告について

(事務局 (こまき市民文化財団))

資料5にもとづいて説明。

以下のとおり、質疑応答があった。

(林 (千) 委員)

親子対象講座があるが、開催時期は秋と冬が多く、夏の七夕の短冊づくりなども風物詩として取り入れるとどうかと思った。また、小牧山親子ラリーの参加人数を知りたい。

(船橋 (鐸) 委員)

小牧山親子ラリーは事前申込制であり、QRコードで時間指定の申込であった。1日あたり55組くらいが参加した。一組が2～3名ほどなので、合計では300名くらいが参加していると思う。

(事務局 (こまき市民文化財団))

親子対象講座の開催時期は、たしかに秋と冬の開催が多く、来年度に向けて検討していきたい。

(林 (千) 委員)

ラピオの子育て広場の短冊づくりは非常に盛況である。親子で参加している方が多いので、青年の家でも出来たらと思い、提案した。

(船橋 (早) 委員)

以前から青年対象講座の年齢制限を取っ払ってほしいと言いつけている。これまで事務局内で一度でも話し合いで検討されたことあるのか。

(事務局 (こまき市民文化財団))

年齢制限は当時、18歳から35歳までを青年として認めるということであった。幅を広げるために16歳から39歳までになったのがその後の経緯であるが、青年の家の職員には年齢を取っ払う権限はないので、経緯のみご報告させていただく。

(船橋(早)委員)

年齢制限はどこで決められたのか。39歳に決めたのはどれくらい前なのか。

(事務局(こまき市民文化財団))

こども政策課との打合せで決めている。10年ほど前になると思う。

(船橋(早)委員)

会議の際、毎回言っているが、なぜ変わらないのか。

(事務局(こども政策課))

令和4年度の事業計画の青年の家自主事業は、こまき市民文化財団が指定管理を受託している。指定管理の仕様書の中で青年対象の講座を行うことと指定しており、これに基づき、講座の計画をしている。

指定管理の期間は5年間であり、今年度まで、この仕様書に基づき動いている。青年講座は青年という年齢が定められているので、対象年齢を動かさないのが現状である。次期指定管理については、令和5年4月から選定されていく。現在の仕様書では、市からの出し方が青年講座ということで行っているのですが、そのところを調整させていただくことで、青年講座を青年の家でやらないということは施設としてはできないため、もう少し幅広く受け入れることができるよう考えさせていただきたい。最終的にそのような形に添えるかは申し上げられないが、そのような手続きの切り替えがあるということでご承知おきいただきたい。

(船橋(早)委員)

50代ですが、自分ではまだまだ青年の気持ちでいる。ぜひ、令和5年度から取り入れていただけるよう期待をさせていただきたい。

(小池委員)

青年会議所においても講座対象者のターゲットが非常に大事になってくる。これまで青年の家は何となくあるなということは知っていたが、青年の家を多くの人に利用してもらうという面では、子どもたちをターゲットにすると良いと思う。

例えば、講義室でのぼりを作ってこども未来館などで飾って、作品を子どもたちが集まる場所で掲げることで、青年の家という存在を発信できると思う。アイデア一つでいろんな部分で利用者が変わってくるので提案させていただく。

(船橋(鐸)委員)

募集方法が広報に掲載となると気づかない人が多い。

小学校に依頼してチラシを入れるなどを行えば、関心のある親御さんについては応募してもらえる。チラシは費用もかかって大変であり、どこの学校を選定して配るのかなど難しい問題もあるが、広報だけだと集まらないと思う。

また、市民まつりではイベント企画隊が青年の家で行事を行っている。史跡公園にはたくさんの屋台などが出店されており、多くの人が集まっているが、青年の家には人が集まっておらず、上まで登ってくる人が少ない。

市民まつりの方で企画しているポイントラリーで青年の家の前にポイントをつくっていただけるときには、青年の家まで人が来たり、イベント企画隊が行事を行っている姿を見学してくれたりする。

青年の家の行事も小牧山での行事一覧には載ってはいるが目立たないため、宣伝方法をもっと考えていただけると参加者が増えると思う。

(松永委員長)

小牧市民なので、小牧山はシンボルであると思う一方、青年の家についてはその中に隠れてしまってもったいないということなのかなと思った。

学校でチラシを配布するというのは非常に多くのものがあり、民間と比較して市のチラシはやはりインパクトに欠けてしまう。お金をかけたほうが良いというわけではないが、校長会でも参加の呼びかけを行うなど人的な取り組みをしている。たくさん講座がある中で、青年の家に注目してもらおうというのは難しい。小牧山には来るけど青年の家には来ないというのは、おっしゃるとおりであると思うが、その隠れた静寂がアイトワに来る子供たちにとっては居場所になっていると思うので、青年の家の役割は大きいかなと思う。

(事務局 (こまき市民文化財団))

広報こまきについては掲載内容に限りがあり、難しい。

広報に代わるものとして、市のラインに掲載して情報発信している。申し込まれた方の中には、ラインを通して講座を知り、応募をした方もいた。これから、ラインを紙媒体に代わるものとして、活用したいと思っている。なお、ラインについては市民文化財団でも行っており、情報の発信をしている。市民まつりの所管課はシティプロモーション課になるので、委員の意見を踏まえて調整していきたい。

(林 (義) 委員)

今年度の事業をみても講座ごとの人数はそれほど多くない。

下から上まで何キロで走れるか年齢ごとに分けてイベントなど、お金をかけずにできるイベントができれば面白いと思う。

以前、夢夜会の際に、青年会議所が灯籠を市内すべての保育園・幼稚園に配布し、児童に作ってもらって、飾るということをやっていた。その年には、多くの人が小牧山の上まで登ってくれて、人が集まっていたこともあり、人数を集めるためにはいろいろな方法があるのかなと思う。

(松永委員長)

小牧山の麓にあるということからすると小牧山のコンテンツを最大限に利用した取り組みをとることになっていくと思う。

3 その他

青年の家玄関部分の工事を8月～9月頃に予定している。

2月頃に第2回運営委員会を予定している。